



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
 上尾市大字上1774-7
 048(776)0575
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
 ホームページは検索サイト
 ”深山たかし”で閲覧できます。

議会レポート

市民要望の実現

議員活動は、皆様から要望を受け、役所に内容を説明し、要望に近づけるのも仕事の一つです。皆様より相談をお受けしても、実現には長期間を要するものも珍しくありません。

どんなに頑張っても、皆様の思いとかけ離れてしまう事もあり、お受けした要望が実現出来ない、私も仕事で未完状態で非常に悩みます。

役所では「法令遵守」が大原則で、直ぐに実現出来そうなことでも、手続きに相当の時間が掛かります。それに加え、予算の関係も複雑に絡んで要望の実現を阻んでいます。

そんな状況でも、熱意が形になったものもあります。

●平方小学校で、五月二十三日(金)に発生した児童・保護者を巻き込んだ事故が報道され、道路の安全を求める声が多くなりました。

上平地区においても皆様からの要望で、上平小学校周辺の消えた白線を引き直しを実施し、上平保育所脇の歩道縁石にラバー製ポールの設置を行いました。



上平小学校周辺の白線引き直し

●三年前、シラコバト団地二十四号棟解体工事に関し、私に相談がありました。住民の方々の実情を島田正一県議会議員を通じ、県に説明をしたところ『住民の皆さんの要望に近い形で決着できました』との報告をいただきました。



上平保育所の歩道脇ポール設置



集会所を残して取り壊された24号棟

上尾市では今後年間約十五億円の費用が必要になるが、平成二十五年度の利益は約六億四千万円なので、必要な更新費用は賄えないのでは？

上水道事業について

平成二十五年度決算の収益的収支では利益があったが、更新費用を計上している資本的収支においては、約九億八千万円の不足を生じている。不足分については、当面、積立金の取り崩しなどにて、補てんしていきたい。

アセットマネジメントによる収支見直しでは、現在の料金収入を維持した場合、向こう三年間は積立金を取り崩しながらも、施設更新は可能であると算定している。今後は、この収支見直しと実際の収支状況を検証し、料金の見直しを含めた財政計画の検討を定期的に行っていく。

下水道事業について

昨年度、策定した基本構想によると、耐用年数五十年が経過した管渠を順次、改築した場合、年間事業費のピークは、約三十三億三千万円となることが明らかになりました。

そのため、既存施設の適切な点検と診断によるストックマネジメントの手法により、リスクの高い施設、及び、地域について優先的に更新するなど、ライフサイクルコストの最小化や、既設管路の内面を補修するなどの、予防保全を目指した「長寿命化」の視点から、施設を更新していくことが効率的かつ効果的であると考えている。一方、今現在、下水道事業は、市街化区域内における未整備地区解消に向け、積極的に取り組んでいるところで、既存施設の改築更新事業についても、国庫補助金などを最大限に活用し、整備と更新をバランスよく進めていきたい。

予防接種について

●「上尾市の予防接種の仕組みについて」

出生届、転入届を受理した際、小学校就学前までの間に接種を受ける六種類、十八回分の予防接種の予診票綴りをお渡しするとともに、冊子「予防接種と子どもの健康」を配付し、これから子育てが始まる保護者の皆様に対して、予防接種に関する知識の啓発を図っています。

また、乳幼児健康診査の保健師による問診の際には、接種の確認と勧奨を行うとともに、最初の接種が始まる生後二か月と、小学校就学前には、すべての乳幼児に対して、個別通知を発送し、接種の勧奨を行っています。さらに、学童期以降に接種する三種類の予防接種については、小中学校を通じて、対象となる各児童に通知を配付し、接種の勧奨を行っています。

ワクチン接種のスケジュール管理について

ワクチンで予防できる病気から子どもを確実に守るためには、必要なワクチンを適切な時期に適切な回数接種することが重要なことであると考えています。

現在、上尾市では、毎年度、全戸配布している健康カレンダーや、広報あげお、個別通知による勧奨、などにより、予防接種のスケジュール情報をお知らせしている状況は、子どもの体調を第一に考えて、保護者と主治医の先生とが、相談しながら接種を進めていくのが、適切であると考えています。

●「定期予防接種助成金について」

この制度は、里帰り出産



健康カレンダー

後、埼玉県外の滞在先での接種を実施する子や県外の医療機関において、継続的な治療、経過観察等を受けている子が多くいることを踏まえ、保護者の経済的負担を軽減するとともに、接種費用の自己負担を理由とする接種控えによる重篤な疾病の罹患を防止することを目的として、接種費用の償還払いを本年七月から実施しています。

手続きについては、最初に電話や保健センターへの来所による予防接種依頼書の申請に始まり、接種、助成金の申請という流れになります。

平成二十五年度は、三十件の県外接種の依頼がありました。今年度は、現在まで、十八人、八十二件分の予防接種依頼書の発行を行っています。

【要望】

お子様の予防接種は、忘れてしまいがちです。適切な通知方法の工夫と、利用者の利便性を図る上で電子申請の導入も要望しました。

空き家対策について

全国的にも管理できていない空き家が増加しています。主な原因として、撤去に伴う費用が高額なことや、家屋を解体して更地にする、固定資産税の軽減措置が受けられなくなる点も考えられるそうです。

近所に空き家が出来てしまうと、雑草の繁茂、家屋の倒壊、害虫の発生、住居侵入・犯罪等が増加する等、住民の生活に支障をきたす事態が生じます。

個人の財産を公金を使って清掃や片付けをすることの理解が得られるのかとの議論もあります。

東北地方では、雪の重みで倒壊した空き家を撤去しても、費用の回収が困難なケースが報告され、行政の介入が難しいとの見方もありますが、何らかの方策を検討する時期にきています。それにはまず、市内の実態を調査する必要性を感じています。